

## お座敷外活動の展開にみる八王子花柳界の再興要因

正会員 ○川原 晋\*  
正会員 岡村 祐\*\*

花街 八王子  
お座敷 公共性  
日本文化 観光

## 1. 研究の背景と目的

日本の伝統文化を包括的に継承し、歴史的に貴重である花街は全国的に減少しており、花街の保全は急務であるといわれている(坂本ら・2012)。しかし当然のことながら、花街を舞台としてお座敷や料理を提供しつつ芸者衆による舞踊等を披露する花柳界という産業が維持され、再興されなければならない。近年、花柳界では新たな客層を増やす試みや、芸者たちの活動の場を花街以外の場所に求める取り組みが生まれている。また、自治体や観光協会、地域の企業が地域資源として花街・花柳界を活かしたいという意図から花柳界と協力した取り組みを行う動きも出ている。

そこで、本稿では、従来の花街内の茶屋や料亭のお座敷における芸の披露等とは異なる取り組み(以下「お座敷外活動」と呼ぶ)に着目し、この活動が花柳界の維持・発展に与える影響を考察する。

研究対象は、東京都八王子市中町に花街を形成する、八王子花柳界を取り上げる。八王子花柳界は、2001年に置屋「ゆき乃恵」を開業した女将である木村恵氏を中心に、お座敷外活動に積極的に取り組み、全国的にも珍しく芸者数の着実な増加がみられるためである。

研究目的と方法は、八王子花柳界のお座敷外活動の内容を既存資料および、関係者のインタビューをもとに把握し、その展開の特徴を明らかにすること、および、八王子花柳界を取り上げた新聞報道の分析から社会の反応や期待等を明らかにすることを通して、八王子花柳界再興の要因を明らかにする。

## 2. 対象地域概要

八王子花街は、八王子市中町に、多摩地域で唯一の花街として存在する。八王子駅から徒歩5分の位置にある(図1)。明治初期頃、地場産業である織物産業の発展と共に、織物業者の接待や宴会のために三業(料理屋、置屋、待合茶屋)が成立し、八王子花柳界が始まった。最盛期の昭和30年代に200人の芸者がいたが、織物産業の衰退や、接待の方法の変化により衰退した。前述のように、恵氏による2001年の置屋「ゆき乃恵」開業後、中町地区まちづくり協議会などの地域組織による、花柳界の周知活動・再生活動が活発化している。現在18名の芸者が在籍し、料亭4軒、置屋6軒である(参考文献2

を元に2014年12月について調査)。



図1 八王子中町花街の位置 (Google Map 使用)

## 3. 八王子花柳界の存立基盤について

八王子花柳界は景観京成の取り組み等で近年も地域との様々な連携活動がある(文献2)。このことを踏まえ、地域と花柳界双方の視点から、連携活動の意義やねらいを把握するため、地域代表者として中町地区まちづくり協議会会長の橋本氏、花柳界には恵氏へのインタビュー調査を実施した。

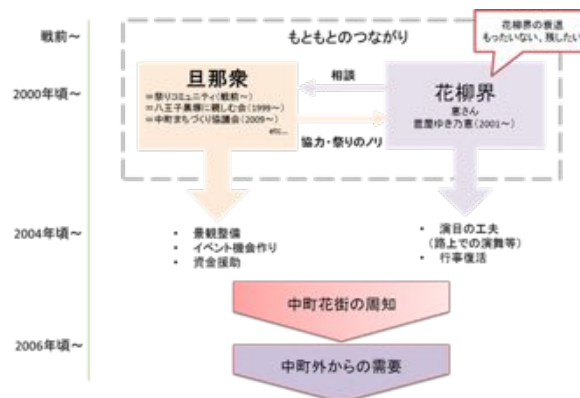


図2 八王子花柳界の存立基盤

その結果、八王子花柳界を取り巻く数多くの支援団体の構成メンバーは、地元で商売をしてきた人など数人による兼任が多いことや、八王子花柳界は、中町の人々の生活や生業の一部として昔から利用されていることがわかった。近年の地域による八王子花柳界への支援は、商業振興や観光振興という意図が働いていると言うより、長年培われた花柳界と地域との「人間関係」や「信頼関係」によって行われていることが分かった(図2)。

#### 4. 八王子花柳界のお座敷活動の展開

「お座敷外活動」の展開状況を明らかにするため、置屋開業の2001年4月から2014年12月末までの約14年間にわたり恵氏により保管された活動記録（パンフレットやインターネット掲載情報等）より情報を抽出し、80件のお座敷外活動について整理した。抽出した情報は、「イベント名、イベント内容、活動時間帯、主催・共催団体、開催場所（特定できない場合は、共催組織・団体の所在地）、演目、活動場所類型（屋外／屋内、ホール、飲食店など）、である（表1）。このうち顕著な傾向が見られたものを説明する。

“人形が芝居をする”日本の伝統が織りなす技と粋～八王子車人形～	2014. 8	京王プラザホテル八王子（いちようホール）	夜	車人形との共演	舞踊
天空芸者ナイト	2014	御岳（みたけ）山商店組合（御岳山 鳥居広場前、御岳山宿坊）	夕方	御岳山で、お座敷遊びを楽しんでもらうイベントで、2020年の東京五輪前に、外国人の誘客を増やす試み	舞踊
「日本画名品選 花の色 風の音」	2014. 1 1	青梅市立美術館（青梅市立美術館）	夜	日本画展と同時開催のコンサート	舞踊
伝統和芸鑑賞会	2014. 1 1	小江戸川越観光協会（八州亭）	夕方	川越市長らと対談、舞披露	舞踊・トーク
「八王子を彩る女性達による歌と踊りの夢の祭典」	2014. 1 2	シネマクラブ（シネマクラブ）	夜	クリスマスディナーショーにゲスト出演	舞踊

◆は毎年開催、★は花柳界主催、●は八王子中町花街2km圏内

表1 八王子花柳界のお座敷外活動の整理例（一部）

イベント名	日にち	開催／共催主体（開催場所）	時間	内容	演目
市民劇団はちおうじ 終戦記念公演	2002. 8	市民劇団八王子（●いちようホール）	?	終戦記念日にちなんだ劇に友情出演、八王子黒塚に親しむ会の協力	その他
春爛漫八王子芸技 花舞台	2003. 3	京王プラザホテル（●同上）	夜	ディナーショーの出演	舞踊
全国花街芸術技芸「芸術祭」	2003. 6	★京都伝統芸振興財団（京都公会館第一ホール）	日中	京都、博多など8つの花街から70人の芸者	舞踊
江戸天下祭	2003. 1	千代田（日比谷公園）	日中		流し踊り行進
小学校での特別授業	2003～2004	八王子第三小学校（●同上）	日中	地域の「名人」を探す授業。踊り・三味線の披露、三味線の説明	舞踊・トーク
新春はしご乗りと初春の舞	◆2004. 1～	★中町町会、中町商店会（●中町公園）	日中	平成18年から新春の舞が加わる	舞踊
宵宮の舞	◆2004. 8～	★ゆき乃恵（●中町公園）	夕方	八王子祭りでの舞披露	舞踊

きものdeおでかけ 八王子芸者と共に過ごす秋の宴	2013. 10	●着方教室「いち溜」八王子校	日中	着物着方教室の定期イベント	舞踊
青梅宿アートフェスティバル 2013	2013. 11	仲町1丁目ネオン会・ほか（青梅宿）	日中	路上での演舞	舞踊
第2回伊達めぐみ&八王子芸者ディナーショー	2013. 12	京王プラザホテル八王子（●京王プラザホテル八王子）	夜	特別ディナーと共に演歌や芸を楽しむ	舞踊
八王子八福神めぐり&初春の舞	2014. 1	多摩らいふ倶楽部（●料亭 すず香）	日中	高齢者向けツアーの一部、昼食をとりながら芸を楽しむ	舞踊
西放射線ユーロードイベント	2014. 10	西放射線ユーロード商店街（●中町三業組合検査前）	日中	西放射線ユーロードのイベントと同時に、検査前の特設ステージにて舞披露	舞踊
八王子をどり	2014. 3	八王子三業組合（●いちようホール）	日中	八王子花柳界の念願、八王子芸技衆が総勢で踊りを披露。新規開催	舞踊
桑都八王子・中町花街イベント「黒塚に柳が映える花街まちづくり」	2014. 3	花街空間研究会（八王子市学園都市センター）	日中	専門家による公演やトークセッション、芸者衆の舞披露など	舞踊

#### 4.1 お座敷外活動の開催主体と開催場所

お座敷外活動の開催主体と開催場所は、14年間80件のイベントで次のような一定の傾向が見られた。まず、2001年から2004年までは、八王子花柳界の存立基盤である八王子市中町周辺の団体からの依頼による同地区を中心とするお座敷外活動が主であった。加えて、恵氏が復活させたいと考えていた「節分の仮装『お化け』2004/02～（30年ぶり復活）」や「八王子祭りでの『にわか（山車ともに練り歩く行事）』および『宵宮の舞』2004/08～（40年ぶり復活）」が、この時期に花柳界主催で復活し、以後毎年継続されている。

2005年から2009年ごろには、お座敷外活動はこれまでのひいき団体とは異なる企業・団体からの依頼が増え、活動地域も八王子市内に広がりを見せる。2010年ごろ以降は、その広がり、多摩地域や埼玉県に広がっている（図3）。

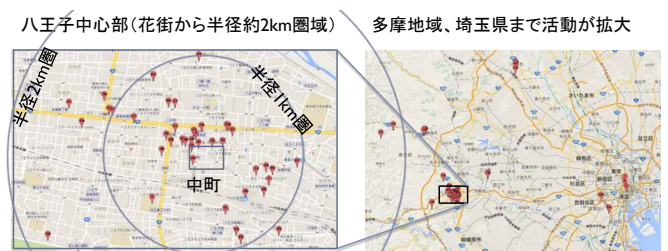


図3 八王子花柳界のお座敷外活動の場所の展開（Google Map利用）

#### 4.2 お座敷外活動の内容

外部からの依頼によるお座敷外活動の内容や演目は、日本舞踊の披露や花柳界文化の紹介、日本文化に関連するイベントでの共演という形が多かった。例えば、地元八王子のホテルや百貨店、商店街、観光地の主催するイベントでの小唄や舞踊の披露がそれである。また「車人

\*首都大学東京 大学院 都市環境科学研究科 観光科学域 准教授 博士（工学）

\*\* 同 助教 博士（工学）

\*Assoc.Prof., Dr.Eng., Department of Tourism Science, Graduate Schools of Urban Environmental Sciences, Tokyo Metropolitan University

\*\*assistant Prof., Dr.Eng., Department of Tourism Science

形との共演「大江戸情緒の夕べ（講談と舞踊）」「ゆかたで七夕 人力車まつり」等である。青梅市立美術館による日本画の特別展示の際に、作品中に描かれている日本の伝統的な歌舞音曲の世界を演じるための出演もあった。一方で、芸とは無関係な、芸者との町歩きなど、芸者の存在のみを話題とするような依頼は断っていることがわかった。

また、こうしたお座敷外活動は、午前や午後前半の「昼の出演」と夕方から夜の「夜の出演」とで比較すると、2001年以降2009年ぐらいまでは、昼と夜で半々程度であったが、2010年以降、「昼の出演」が全体の7割をしめるようになってきている（図4）。女性や子供といったより幅広い層の目に触れる機会が増えていることが想像できる。

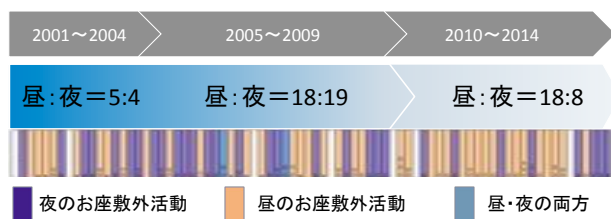


図4 八王子花柳界のお座敷外活動の時間帯の変遷

### 4.3 お座敷外活動の展開のまとめ

以上をまとめると、恵氏が置屋を開業した2001年より、約5年ごとに展開を見ることができよう（図5）。すなわち、当初4年で、従来からの八王子花柳界の支持基盤である中町地区の商業者、企業団体との関係を再度深め、支援をされながら、花柳界主催のイベントを復活させた第一期・再興初期（2001-2004）、八王子市内のより広域からの依頼が増えた第二期・再興中期（2004-2010）、多摩や埼玉などより広域から、アートフェスティバル（青梅）や美術館、議会での出演等、より公共的な場での日中の出演が増えた第三期・再興展開期である。

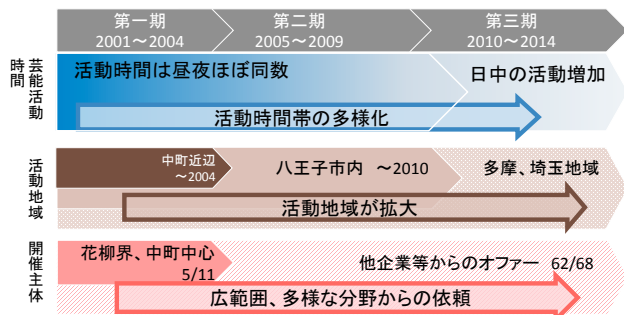


図5 八王子花柳界のお座敷外活動の展開

## 5. マス・メディアによる取り上げられ方の変遷

次に、八王子花柳界に対する社会の反応を明らかにするため、置屋開業後14年間の八王子花柳界や中町花街について扱った、マス・メディアによる報道情報を抽出、整理した。対象としたメディアは全国の新聞記事、週刊誌、フリーペーパー、テレビ出演である。2001年以降、109記事を抽出することができた。これらを記事・番組のタイトル、日にち、報道媒体と発行範囲（全国、多摩版等）、内容、恵氏のコメント、その他関係者のコメントとして整理した。

表2 掲載記事・出演番組数

新聞	87
テレビ	11
フリーペーパー	6
雑誌	4
ポスター	1

表2 八王子花柳界を取り上げた記事の整理例（一部）

タイトル	日	発信元	内容	恵氏の発言	関係者の発言
芸者文化を外国人に御岳山でイベント	2014.8.27	読売新聞（多摩版）	天空芸者ナイト 初回レポート		
天空宴：芸者遊び堪能御岳山で	2014.8.27	毎日新聞（東京都版）	芸妓組合から5人		「踊り美しい、とても楽しい体験」
「天空のまち」に外国人観光客を	2014.8.29	NHK総合（首都圏）	「天空のまち」青梅で外国人観光客向けにお座敷体験や舞を披露		
釜石の座敷唄 八王子に響く	2014.9.8	朝日新聞（東京都版）	釜石の芸を八王子花柳界が継承し、八王子で披露するエピソード	「同じ芸者として、三味線を弾けないつらさが分かる」「芸は継承しなければ消失することを学んだ、感謝」	藤間さん：一人でも必死に芸を伝えてきたので、後継者が見つかって安心した。
「川越芸者」復活させましょ	2014.1.9	朝日新聞（全国版）	川越芸者を復活させるプロジェクトの記事。八王子芸者が川越の商工関係者を前に芸を披露	川越の活動を手伝いたい	

2008年ごろまではほぼ一社の新聞社の多摩版によって報道され、2009年ごろから同社の東京都内への報道に広まっている。2010年ごろから、複数のメディアが報道するようになり、八王子花柳界に対する関心の高まりが見て取れる。そして、記事の内容も八王子花柳界が関わる単なるイベント紹介から、八王子花柳界の「再興の一連の経緯」に注目した記事が増大している。また、そうした記事における恵氏の地域に根ざした活動や伝統文化の再興に対する思いや一貫性のあるコメントがある。これが強いメッセージ性を有していると考えられる。この変遷の様子を4章の時期区分と照らして図化したのが図6である。

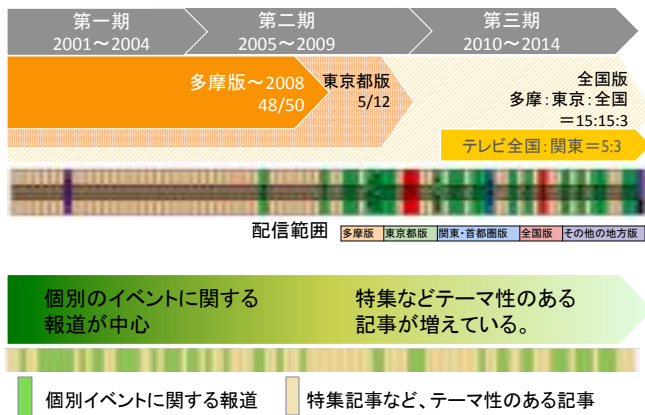


図6 八王子花柳界に対するマス・メディアの反応経緯

## 6. まとめ：八王子花柳界の再興要因の考察

最後に、4、5章の結果を恵氏に提示し、14年間の取り組みの振り返りと、お座敷外活動の企画づくりについてのインタビューを行った。この結果をあわせて、八王子花柳界の再興活動の要因について考察を行う。

14年間の取り組みの振り返りからは、恵氏の花柳界活動への一貫した想いが把握できた。それは、第一に、八王子花柳界形成の当初から関係であり、また再興初期を支えた地元中町や八王子の旦那衆とのつながりを大切に、八王子の街や企業などの「地域に根ざす活動」がある。第二に、置屋開設時の想いとお座敷外活動による外部からの期待等を受け止めることを通して強く育まれた「花柳界文化の継承」にかける想いである。

また、お座敷外活動の企画づくりについては、芸の披露やお座敷遊びを伝え、また芸を磨く機会ととらえていることから、依頼者の希望を受け止めつつ、やり過ぎないように配慮しながらその意図を加えた提案型で企画を返すことに心がけていることがわかった。一方、この意図につながらない企画は受けていないこともわかった。

八王子花柳界の再興は、恵氏を中心とする八王子花柳界の一貫した想いと、芸のすばらしさを伝えたいという意図を込めたお座敷外活動が評価されることによる好循環があると考えられる(図7)。

特に、2010年以降の第三期・再興展開期における、お座敷外活動のより広域的で、より公共的な場での公演が増えていることは、一般市民が花柳界文化を気軽に楽しむ機会を提供することにつながっていることがわかった。

一般的には、花柳界や花街に対する偏見はまだまだあり、日本文化を継承する業界や場であるという理解は乏しい。こうした八王子花柳界のようなお座敷外活動やメディアを通じた広報を続けていくことにより、日本文化

を継承の場としての花柳界、花街の必要性和公共性を獲得し、より多く、利用者と支援者を広げていくことが望まれる。

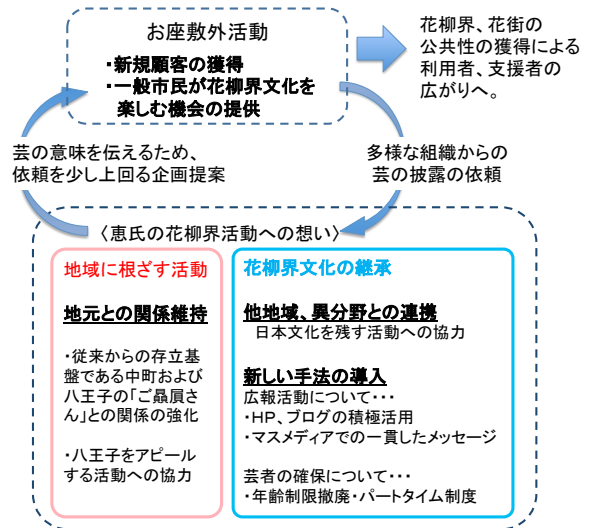


図7 八王子花柳界の活動とその意図

## 謝辞

本稿は、首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコースの早崎由紀さんの H.26 年度卒業論文を再構成したものである。また、本研究は JSPS 科研費 24360246 (代表 岡崎篤行・新潟大学) の助成を受けたものである。記して感謝の意を表します。

## 参考文献

- 1) 浅原須美 (1998) : 夫婦で行く花街・花柳界入門 / 小学館
- 2) 久保有朋・岡崎篤行 (2014) : 花街建築に関する分布の変遷及びまちづくりのプロセス—八王子市中町を対象として— / 日本建築学会大会学術講演会梗概集 2014年, p475-476
- 3) 坂本萌・岡崎篤行・今村洋一 (2012) : 花街における景観保全及び地域振興の経緯—金沢三茶野街を対象として— / 日本建築学会大会学術講演会梗概集 2012年, p733-p734

\*首都大学東京 大学院 都市環境科学研究科 観光科学域 准教授 博士 (工学)

\*\* 同 助教 博士 (工学)

\*Assoc.Prof., Dr.Eng., Department of Tourism Science, Graduate Schools of Urban Environmental Sciences, Tokyo Metropolitan University

\*\*assistant Prof., Dr.Eng., Department of Tourism Science